

## ⑤先人の教え

### 創造的職場で輝く社員

#### 会社に魅力がなければ人は育たぬ

魅力的の企業とは、その条件はたくさんあるが次の三つが基本になると思う。

まず第一条件は、自分の生活を保障してくれる労働条件、第二は公私にわたる良い人間関係、第三は仕事に対するやりがいと満足感です。この三つを満たすようにするのが幹部の役割で、社長だけが責任を持つとすれば役員幹部は何を考えているのか、反省しなければいけません。

第一番目の社員の生活保障は、改めて述べる必要はないが、ろくに給料ももらえず、いつ倒産するか分からないような職場では社員が安心して働くことは出来ない。いつどのような事態に追い込まれないとも限らないのだから、企業は平時からそうした事態に対処できる体制を確立しておく必要がある。人間は誰でも夢を持っています。ましては家庭を持ち、子供が出来ると自分を含めた将来設計を考えます。この子供が学校を出て就業するまで〇〇年ある。それでは、この会社で頑張らなくては・・・と努力します。だから企業というものは常に前進していかなければならないし、そうした将来性があるこそ、社員とその家庭は安定し、幸福な生活が送れるというものです。

第二番目は人間関係ですが、接し方を工夫すれば人間関係も円滑になります。幹部指導が毎日多少変わった仕組みで務めを教育することにより、目を輝かせ仕事に邁進するといったケースはあるであろう。多少給料は安く、残業が多い職場でも、また3Kと呼ばれる仕事でも、職場の良い人間関係の中で仕事が出来れば、その職場に魅力を感じるものです。山半の社員の仲間が仲間達のため働く考え方は、自分も良くなる共生というものです。又、報告・連絡・相談の三つがうまく行なわれて良い職場という意味のホウレンソウ運動が編み出されている。

第三番目のやりがい、満足感の職場とは、簡単に述べると、その仕事が創造性を発揮する余地がある仕事であること、そしてその仕事に対して上司が正当に評価してくれ、その評価に基づいた処遇がきちんと行なわれている職場であるということが、やりがいと満足感を支えてくれる職場ということになるのです。整理整頓が行き届き、整然と仕事を進めることのできる職場も良いが、一方、仕事中はカタログ、資料が乱雑に積み重なり、みんながワイワイガヤガヤとせわしく働き回っている職場も魅力的である。帰社する5分前に周りを整理整頓する心掛けが必要である。上からの押し付けでなく、みんなが自発的に仕事をしている職場というものは、自由闊達なムードにあふれているもので、社員が輝いて見えるものである。反面各自の仕事においては、上司の命令や取引先の要請で納期が決められているからこそ時にはつらい事があってもそれを乗り越えて何とか納期に間に合わせようと頑張るのであって、その過程で実力をつけ、達成の喜び、生き甲斐といったものを感じるわけです。このように社員が他から強制されないと仕事をしないという側面があることを忘れてはならない。指示、命令といった強制部分と本人の自由裁量に任せる部分とが

バランスよく配置されて始めて魅力的な職場が生れるものである。山半の社員は、このような集団であり、又、社員の悩みには幹部も耳を貸し解決する。これが仲間意識なのである。

社長が普段述べている工業所有権の活用は、将来の大きな実績を伴う夢なのである。そのには将来性がついてくる。みんなで頑張ろうではないか。公示企業を4ヶ年続ける優良法人であり、在庫回転率日本一、無借金経営。このような職場は皆が努力で培った実績ではないか。他社にない山半の職場は誇りである。山半社員は、仲間の縁を大切にしよう。

この訓話は故石田会長が昭和50年当時社長の時に述べたものです。

今現在でも会長が言う魅力的な企業の三つの基本が継承されています。

- 1・この厳しい経済状態でも創業以来黒字決算を続け、無借金経営を守り、社員とその家族の生活は安定し、幸福な生活を送っています。
- 2・人間関係は報告・連絡・相談が機能し、職場のネットにおける掲示板、連絡事項等で情報、方針、問題定義等の共有化が進み、魅力ある職場で調和がとれています。
- 3・創造性を十分に発揮できる仕事です。全社員が何を考え業務を進め、目標としているか誰でも見ることができ、結果、成果は年功序列に関係なく正当に評価します。やりがいもあります。満足感、充実感もあります。なんと言っても仕事を楽しくできる喜びをもった社員がいます。

これからも良い事は継承し、会社に魅力をつけ、人を育てます。

平成31年3月26日